

ワイルド・カード

2005(平成17)年7月26日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★★



監督=キム・ユジン/出演=ヤン・ドングン/チョン・ジニョン/ハン・チェヨン/キ・ジュボン/イ・ドンギョ/ソ・ジェギョン/イ・ドギョン (エスピーオー配給/2003年韓国映画/114分)

……韓国版『太陽にほえろ!』とも言うべき6人の熱血刑事の奮闘ぶりを描く映画だが、犯人への憤りと捜査の限界に苦悩する刑事たちの心の悩みもタップリと。もっとも、刑事の中には過去の傷を引きずったぐうたらな奴もいるが、そんな刑事だってイザとなれば……? 日本の弁護士の目には、韓国における犯罪捜査のあり方についてのさまざまな疑問点がみえるものの、主人公の情熱に免じてそれもオーケーとしておこう……? なお例によって、紅一点の活躍ぶりにも注目を……!

韓国版『太陽にほえろ!』か……?

日本では刑事モノのテレビドラマとして『太陽にほえろ!』や『はぐれ刑事純情派』などがあるが、韓国ではどうなのだろうか? もちろん刑事モノといっても、そのバリエーションはさまざまで、アメリカの『刑事コロンボ』のような刑事のパーソナリティを全面に押し出しながら、犯人捜しの妙をテーマにしたものもある。この韓国版『太陽にほえろ!』とも言うべき『ワイルド・カード』は、6人の刑事たちの活躍ぶりとその刑事たちの人間味をスクリーン一杯に表現した好作。韓国では同時期に公開された刑事モノの傑作『殺人の追憶』(03年)とともに大ヒットしたとのこと。

2人の主役は?

この映画の主人公となるのは2人の刑事。その1人のジェス(ヤン・ドング

ン)は、殺人課のキム課長(キ・ジュボン)の部下の中でもっとも若い熱血刑事! このジェスは先輩のヨンダル(チョン・ジニョン)とコンビを組んでいる。ジェスの正義感には並々ならぬものがあるが、それはややもすれば暴走する危険も……? こんなジェスを演ずるのは、キム・ギドク監督の『受取人不明』(01年)でアメリカ兵とのハーフを演じて2001年に第21回映画評論家協会賞新人男優賞を受賞したヤン・ドンゴン。たくましい身体全体と大きな顔(?)で表現される迫力ある演技には大いに感心!

他方、ヨンダルは過去の拳銃の使用をめぐってチェックを受けている立場だが、そこからわかるように、ヨンダルは殺人課の宝ともいべき脂の乗り切った熱血刑事。花屋を経営している奥さんとの間に1人の女の子がいるが、ヨンダルは子供の寝顔しか見たことがないらしい。そのうえ奥さんのもとにはヨンダルに逆恨みしているワルどもからの脅迫電話も日常的……? しかしこの奥さんの根性はたくましいもの。そんな脅迫電話を平然と受け流し、家庭を守っているからまさに「刑事の妻のカガミ」のような女性。なぜ、「ヨンダル先輩のような刑事と結婚したのですか?」と質問するジェスに対する答えは、何と「新婚旅行から帰るまで、刑事だとは知らなかった」「私には倫理の先生だと嘘をついていた」とのこと……? これって、ヘタすると結婚詐欺だが、結果オーライならそれでいいのかも……?

どこでも上司の質が大切!

『太陽にはえろ!』では、石原裕次郎が「ボス」としてデンとデスクに座って、テキパキと適切な指示を出していたように、部下が本気で働くためには、上司の質が大切! この『ワイルド・カード』に登場する第3課長のキムは、若い頃はその検挙率の高さで鳴らした敏腕刑事で、祝日しか家に帰らなかったらしい。そこでつけられたあだ名が「祝日のキム」。さてそのココロは……?

ある日、地下鉄構内で1人の女性が殺され、有り金すべてを奪われた。残された防犯カメラの映像によると、犯人は4人の通り魔と断定されたが、犯人たちの顔は全くわからない。手がかりは少ないがこれは重大事件であり、第2、第3の犯罪が予想されるものだった。そこで、この事件の担当を命じられたのがキム課

長。ジェスやヨンダルたち6人の刑事たちは徹夜での聞き取り捜査に着手したが……？

若く美しい謎の女性は？

スクリーン上には突然、1人さっそうとスポーツジムの中でランニングマシンを使って汗を流している若く美しい女性が登場する。次のシーンは彼女が着替えてジムを後にするシーン。そしてそこに飛び出して、「職務質問」をするのがジェス。敬礼したうえ、「失礼ですがお名前を……？」「カン・ナナさん、住所は〇〇、△△で……ご協力ありがとうございます」と最敬礼……。カン・ナナ（ハン・チェヨン）はこんな「職務質問」に対して一言も喋らず、ジェスを無視したまま離れていくが、ジェスはそんな彼女をじっと……？ さて、これは一体ナニ……？ また何回も恒例となっている「職務質問」を受ける女性、カン・ナナとは一体誰……？

第2、第3の犯罪は……？

通り魔による強盗殺人事件は、1件で終わらないのが常識。なぜなら1度味をしめた犯人たちは、当然第2、第3の犯行に走る可能性が高いから……。捜査に奔走する刑事たちをあざ笑うかのように、4人の通り魔たちの犯行は次々と。そしてそれはいずれも大胆で残忍なもの。そのリーダーはハンサムで背が高く、カッコいいノ・ジェボン。これを演ずるイ・ドンギュは映画初出演とのことだが、冷酷なワルの味をタップリと……？

ある日、タイミングを逸したため、通り魔強盗をあきらめた4人組は、その目の前を歩いていった見るからに水商売風のハデハデしい女性を見てついムラムラと……。そして彼女を大通りに面する公園の中で堂々と輪姦……？ 翌日、怒り狂った彼女はキム課長らの前で告訴するとわめいたが、なかなか具体的な犯人像を作り上げることができず、彼女の記憶を頼りに作成した「似顔絵」はもうひとつ精度にかけるもの……。

指紋採取が決め手！

しかし、続いて犯人たちがカラオケに興じながら、サービスの悪い女性2人を

惨殺した部屋からは、鑑識課の活躍によって、指紋などの重要証拠が発見された。この殺人現場にかけつけたジェスとヨンダルが見たのは、指紋の採取に活躍するカン・ナナ「刑事」の美しい姿だったから驚き……！

こんな科学捜査(?)の結果から割り出された犯人像として浮かび上がったのがキム・ミンギ(ソ・ジェギョン)。そして行動を控えて別行動をとっていたこのキムが、大金をもって競馬場に現れたところを、ジェスたちがやっと逮捕。さて、続いてこのキムから、どうやって自供をひき出すのか？ さらにどのようにして共犯者を逮捕するのか？ その捜査テクニックも、この映画の見どころだから、ぜひ注目を……。

韓国流(?)の捜査はかなり強引……？

今や円熟期にあるヨンダル刑事には過去に検挙したワルどものリストがいっぱい。キム課長が指示したのも、足による聞き込み捜査。つまりヤクザ、チンピラ、その他前科者や犯罪予備軍たちへの聞き込みによって、挙動の不審な4人組がいなかったか調べていくこと。

2005(平成17)年7月7日と7月21日に起こった、ロンドンでの地下鉄爆破テロの捜査をめぐる、イギリスでは論争が起きているが、犯人の検挙と適正な捜査とは常に矛盾する可能性がある難しい問題……。

当然拳銃の使用については細かい規則があるが、現場の声としては、「それを遵守しては犯人に逃げられてしまう」「反撃されて、刑事が殺されたらどうなるの」となるのは当然。この、拳銃の使用をめぐる争点については、この映画ではかなりのウエイトを置いて表現している。しかし、刑事として顔なじみになっているヤクザを使って(依頼して)、「犯人を捜せ!」「いつまでに報告しろ!」というようなこの映画の中でジェスとヨンダルが見せる捜査は、日本では当然違法! そのうえ、ヨンダルが顔なじみのヤクザのボス、ト・サンチュン(イ・ドギョン)と交渉している内容は、利益誘導(?)も含まれている様子。つまりそれは、きちんと報告すれば、一定の犯罪を見逃してやるという取引のようだから、こりゃかなり問題。まあ、刑事を主人公にした映画だから多少は大目に、とは思うものの、韓国版刑事モノには、日本版よりかなり強引な捜査が目につくことは

明らか。法律の勉強をしている学生諸君は、そんな点にも注目しながらこの映画を楽しんでもらいたい。

ちょっとしたスパイスもいい味に……。

模範的な上司であるキム課長や優秀で献身的な刑事であるジェスやヨンダルたちだけでなく、殺人課には定年間近のぐうたら刑事もいるよう……？ 彼は後輩たちが休みを返上して生命をかけて極悪犯人たちの逮捕に努力している姿を横目に見ながら、少年たちを検挙しては、そこから金を搾り取っていい気になっている。さらに時々、罪を見逃してやることと引き換えに、ちょっとしたピンハネのようなこともやっている様子……？ 若いジェスはこんな先輩の行動に納得できず罵声をあびせたが、ヨンダルはそれを制止。そしてキム課長も「チームとしての和が大切だ」と説いた。

しかし、彼が今こんなぐうたら刑事になっているのはそれ相応のワケが……？ そしてキムの逮捕の際、いったんはヘマをやらかした彼も、総力をあげた残りの3人組の逮捕劇では身を挺して見事なはたらきを……。まさに殺人課に属する6人の刑事たちの個性や能力はさまざま。またそのそれぞれがもつ刑事としての思いや歴史、経験もそれぞれ……。ジェスやヨンダルのような熱血刑事だけではなく、こんなぐうたら刑事の登場はこの映画のいいスパイスに……。

ヨンダル刑事の大スキな歌は？

韓国では長い間日本の歌が禁止されており、これが解禁されたのは2004年1月。以降、歌の日韓交流は急激に進み、BoAをはじめとする韓国の若手美人アーティストなどは日本でも大人気（というより私に大人気……？）。日本人アーティストとしては韓国でも浜崎あゆみなどがトップだろうが、円熟期にあるヨンダル刑事が車の中でいつも聴き、カラオケで歌う歌は加藤登紀子の『百万本のバラ』。私も大スキな歌で、昔はカラオケでもよく歌っていたが今は全然……。ヨンダル刑事がこの歌が大スキという意味は、多分、この歌しか知らないし歌えないということとイコール……？ しかし、韓国語でこの歌を100万回も歌ってくれるそうだから、それには加藤登紀子も大喜び……。 2005(平成17)年7月27日記